

学校の在り方地区検討委員会（三八地区）

《 検討結果報告書 》

令和8年6月1日

目 次

| | | |
|---|------------------------------------|----|
| 1 | 中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み..... | 1 |
| 2 | 学校の在り方に関する主な意見..... | 2 |
| | （1）目指す学校像..... | 2 |
| | （2）単位制..... | 2 |
| | （3）少人数学級編制..... | 2 |
| | （4）その他..... | 2 |
| 3 | 全日制課程の学校規模・配置..... | 3 |
| | （1）学校配置シミュレーション..... | 3 |
| | ア 学級減（八戸西高校・三戸郡を除く）で対応..... | 3 |
| | イ 学級減（八戸西高校及び八戸商業高校）で対応..... | 5 |
| | （2）シミュレーション以外の学校規模・配置等に関する意見..... | 7 |
| 4 | 定時制課程及び通信制課程に関する意見..... | 9 |
| 5 | その他..... | 9 |
| | 【参考1】委員名簿（三八地区）..... | 10 |
| | 【参考2】オブザーバー名簿（三八地区）..... | 11 |
| | 【参考3】学校の在り方地区検討委員会の開催状況（三八地区）..... | 12 |
| | 【参考4】地区懇談会（令和7年10月実施）等の主な意見..... | 12 |

1 中学校卒業業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み

| | | 東青 | 西北 | 中南 | 上北 | 下北 | 三八 | 県計 |
|------------------|--------------|------------------|----------------|------------------|------------------|----------------|------------------|--------------------|
| 中学校卒業 予 定 者 数 | R9 | 2,208人 | 827人 | 1,933人 | 1,442人 | 479人 | 2,265人 | 9,154人 |
| | R14 (対R9) | 1,894人 (△314) | 756人 (△71) | 1,816人 (△117) | 1,343人 (△99) | 392人 (△87) | 2,027人 (△238) | 8,228人 (△926) |
| | R19 (対R9) | 1,489人 (△719) | 552人 (△275) | 1,399人 (△534) | 1,086人 (△356) | 285人 (△194) | 1,508人 (△757) | 6,319人 (△2,835) |
| 県立高等学校 募集学級数 | R9 | 42c1 | 17c1 | 36c1 | 32c1 | 12c1 | 37c1 | 176c1 |
| | R14 (対R9) | 36c1 (△6) | 15c1 (△2) | 34c1 (△2) | 27c1 (△5) | 11c1 (△1) | 35c1 (△2) | 158c1 (△18) |
| | | 37c1 (△5) | 15c1 (△2) | 35c1 (△1) | 27c1 (△5) | 11c1 (△1) | 35c1 (△2) | 160c1 (△16) |
| | R19 (対R9) | 29c1 (△13) | 11c1 (△6) | 27c1 (△9) | 22c1 (△10) | 9c1 (△3) | 26c1 (△11) | 124c1 (△52) |
| | | 30c1 (△12) | 11c1 (△6) | 27c1 (△9) | 23c1 (△9) | 9c1 (△3) | 27c1 (△10) | 127c1 (△49) |

※ 募集学級数の上段は、現行どおりの学級編制とした場合、下段は、商業科及び家庭科で少人数学級編制を実施した場合。

※ 中学校卒業予定者数は、各年3月の見込み。

※ 地域校及び令和10年度に配置する地域共育校は、学級数が変動する可能性があるため、西北・上北・下北・三八地区においては、募集学級数に変動が生じることがある。

2 学校の在り方に関する主な意見

(1) 目指す学校像

- デジタルスキルや主体性、協働性を育むため、デジタル分野に関する学びや探究的な学び、分野横断的な学びに重点的に取り組むことができる高校が必要である。
- 普通科と職業学科を併置し、学力と特定職業のスキルを併せて身に付けることができる高校が必要である。
- 高校では、地域で活躍する人財の育成に向け、地域と連携した学びを提供する必要がある。
- 生徒が進学や就職に必要なスキルを身に付け、主体的に進路を選択することができる高校が必要である。

(2) 単位制

- 教員確保も含めて早急に検討を進めることが望ましい。

(3) 少人数学級編制

- 後期実施計画で大規模な再編を行うことを前提に、前期実施計画では少人数学級編制により対応し、教育の質を高めることも考えられる。
- 教員確保も含めて早急に検討を進めることが望ましい。
- 学科の維持や中学生の多様なニーズ等へ対応するため、少人数学級編制の実施による対応も考えられる。

(4) その他

- 中高一貫教育について、高校段階で複数の学科を選択できるようにするなど、地区の実情を踏まえた導入を検討する必要がある。

3 全日制課程の学校規模・配置

(1) 学校配置シミュレーション

各シミュレーションは、本委員会において様々な観点で検討した学校配置案である。

ア 学級減（八戸西高校・三戸郡を除く）で対応

| 第2期実施計画 | | 前期実施計画 |
|--------------------------------|-----------|--------------------------------|
| R 9 | | R 1 4 |
| 八戸 6学級 | | 八戸 ○学級 |
| 八戸東 普通科4学級 表現科1学級 5学級 | | 八戸東 普通科○学級 表現科○学級 ○学級 |
| 八戸北 5学級 | | 八戸北 ○学級 |
| 八戸西 普通科5学級 スポ科1学級 6学級 | △2学級 → | 八戸西 普通科5学級 スポ科1学級 6学級 |
| 名久井農業 2学級 | | 名久井農業 2学級 |
| 八戸水産 3学級 | | 八戸水産 ○学級 |
| 八戸工業 6学級 | | 八戸工業 ○学級 |
| 八戸商業 3学級 | | 八戸商業 ○学級 |
| 36学級 | → | 34学級 |
| 【地域校】 三戸 1学級 | | 【地域共育校】 三戸 1学級 |
| 37学級 | → | 35学級 |

※学級減の対象となりうる高校については、学級数を「○学級」と示している。

シミュレーションに関する意見

- 八戸西高校は高倍率を維持しており、三戸郡の生徒にとって通いやすい高校であるため、学級数を維持してほしい。
- 三戸高校や名久井農業高校には三戸郡の生徒が多く在籍しているほか、全国からの生徒募集や地域と連携した特色ある活動を行っているため維持してほしい。
- ◇ 八戸高校・八戸東高校・八戸北高校は高倍率であり、学級減となった場合、中学生のニーズと不一致となる。
- ◇ 八戸高校を1学級減じた場合、八戸高校から他校に志望校を変える生徒が現れ、他校の倍率も上がることで教育の質を落とさずに済む可能性がある。
- ◇ 八戸西高校の学級減については、八戸学院ひばり野西高校の開校による三戸郡の中学生の進路状況や八戸駅西口周辺の生徒数の推移を注視しながら検討する必要がある。
- ◇ 三戸郡で私立高校への単願による入学を希望する中学生が増加しているため、動向を注視する必要がある。
- ◇ 三戸郡の生徒と保護者のニーズに合っている。

○：シミュレーションの基となった意見

◇：シミュレーションに対する意見

イ 学級減（八戸西高校及び八戸商業高校）で対応

| 第2期実施計画 | | 前期実施計画 |
|--------------------------------|-----------|--------------------------------|
| R 9 | | R 1 4 |
| 八戸 6学級 | | 八戸 6学級 |
| 八戸東 普通科4学級 表現科1学級 5学級 | | 八戸東 普通科4学級 表現科1学級 5学級 |
| 八戸北 5学級 | | 八戸北 5学級 |
| 八戸西 普通科5学級 スポ科1学級 6学級 | △2学級 → | 八戸西 普通科4学級 スポ科1学級 5学級 |
| 名久井農業 2学級 | | 名久井農業 2学級 |
| 八戸水産 3学級 | | 八戸水産 3学級 |
| 八戸工業 6学級 | | 八戸工業 6学級 |
| 八戸商業 3学級 | | 八戸商業 2学級 |
| 36学級 | → | 34学級 |
| 【地域校】 三戸 1学級 | | 【地域共育校】 三戸 1学級 |
| 37学級 | → | 35学級 |

シミュレーションに関する意見

- 中学生のニーズを踏まえると、普通科の2学級減は避けるのが良い。
- 第2期実施計画で学級減の対象となった八戸東高校、八戸北高校、他校にはない人財育成の体制が構築されている八戸高校の学級減を避けると、普通科においては、八戸西高校の学級減が考えられる。
- 学科の消滅を防ぐ観点から、1学科1学級となっている職業教育を主とする専門学科の学級減は避け、八戸商業高校の学級減が考えられる。
- ◇ 1学科1学級となっている学科の学級減の影響は大きく、また、中学生のニーズは普通科にある。

○：シミュレーションの基となった意見

◇：シミュレーションに対する意見

(2) シミュレーション以外の学校規模・配置等に関する意見

<学校規模・配置>

- 生徒の通学環境に配慮した学校配置が必要である。
- 中学校卒業予定者数が減少していく中において、規模の適正化を図っていく必要がある。
- 統合と学級減を組み合わせることで実施することにより、徐々に学級数を減らしていくことが考えられる。

<学級減>

- 学級減の検討には、志望倍率等の中学生のニーズを考慮し、中学生の進路選択肢を狭めないようにすることが必要である。
- 地区全体で人口が減少しており、将来の更なる学級減を見据えた議論が必要である。
- 教育の質の確保の観点や現行計画における学級減の実績を踏まえた議論が必要である。
- 学級減を実施しても大きな影響がない高校を対象とするべき。
- 職業学科の学級減は学科の消滅に直結する。
- 学科の統合を行い2学級分を減じることも選択肢の一つ。
- 職業学科を維持する必要があることや、生成AIの普及等により普通科の学びの価値が下がる懸念があることを踏まえると、普通科の学級減により対応することが考えられる。

<前期実施計画における統合等>

- 中学校卒業予定者数の減少や多様化している中学生のニーズに対応するためには、学級減ではなく統合による対応も考えられる。
- 学級減よりも統合により学級数を減らす策を考えたほうが良い。
- 小規模校では人間関係が固定化されやすいという課題があるため、統合に向けた検討が必要である。
- 学級減が教育の質の低下に繋がることや、後期実施計画で9学級減が必要になることを踏まえると、将来を見据え、前期実施計画で統合を検討するのが良い。
- 八戸商業高校の進学率が高いことから、普通科を有する高校との統合が考えられる。
- 効果や課題を検証する必要があるが、職業教育を主とする専門学科と普通科を有する高校の統合も考えられる。
- 統合により異なる学科を併置する場合、学科間の連携・交流が可能となるメリットもある。
- 異なる学科の統合により、多様な学びの提供や、様々な目標を持った生徒の確保が可能となるなど、魅力的な高校になる。
- 進学先の傾向が異なる高校の統合については慎重に考える必要がある。
- 八戸水産高校、八戸工業高校、八戸商業高校を統合し、「八戸産業高校」とするなど、統合により新しい高校を設置することも考えられる。
- 八戸北高校と八戸東高校の統合も考えられる。

<後期実施計画における統合等>

- 後期実施計画期間では統廃合を進めていく必要があることから、後期実施計画策定前の早い段階から検討を開始した上で、統合に関する情報を早めに周知するべき。
- 統合については、令和14年度から本格実施される次期学習指導要領の内容を踏まえながら、後期実施計画で行うのが良い。
- 統合により、普通科と特色ある学科を併置することが考えられる。
- 統合校の特色や育成を目指す人財像、学科の連携先の設定が重要である。
- 普通科同士又は職業学科同士で統合し、ある程度大きい規模の統合校を設置するのが良い。
- 普通科については、高校の立地や生徒の通学環境を考慮しながら、八戸市内の4校を3校に集約することが考えられる。
- 普通科と職業学科を統合する場合、職業学科の特色を維持する観点から、普通科の学級数を優先的に減らすのが良い。
- 統合に当たっては、生徒の通学環境を考慮する必要がある。
- 統合を行う場合、私立高校や高等教育機関、地元企業との連携を通じて地域の魅力を知ってもらい、地元に着用してもらう仕組みづくりが必要である。
- 統合を行う場合、インターンシップ、フィールドワーク等の活動を通じて、生徒が知識・技能の習得を実感できるようなカリキュラムを編成することが考えられる。
- 八戸水産高校、八戸工業高校及び八戸商業高校の統合により、地元に着用し、生産から流通までの課題を解決する人財の育成が期待される。
八戸水産高校の校舎は海の近くであることが必要であるため、八戸工業高校と八戸商業高校を統合することで通学の利便性を確保しつつ、八戸水産高校とは授業で連携することも考えられる。
- 統合を行う場合、施設整備の状況についても考慮する必要がある。
- 複数の職業学科を有する統合校を設置し、入学後に学科の変更を認める仕組みを整備することも考えられる。
- 後期実施計画では、多くの小規模校を維持するより、統合により大規模校を設置するメリットの方が大きくなるのではないか。
- 統合を行う場合、大学進学に向けた基礎を習得できるようにするとともに、地元で活躍できる人財を育成できるようにする必要がある。

<学科等>

- 普通科における特進科の新設も考えられる。
- 普通教育を主とする学科における新たな学科（以下「新普通科」という。）の設置については、中学生の選択肢が増えるため賛同する。
- 新普通科については、中学生やその保護者にとって分かりやすい名称とするとともに、卒業後の想定される進路まで示して周知する必要がある。
- 新普通科の設置に当たっては、指導する教員の資質向上を図る必要がある。
- データサイエンス科は八戸北高校に設置し、理数系人財の育成を特色とするのが良い。
- 未来デザイン科は、地域と一体となって教育活動を実施していく特徴があることを踏まえ、三戸高校への設置が考えられる。

- 三戸高校に未来デザイン科又は探究科を設置し、学校の特色を打ち出すことが考えられる。
- 八戸西高校のスポーツ科学科、八戸東高校の表現科は特長的な教育活動を実施しているため維持するべき。
- 新普通科の設置は、生徒の進路の選択肢を広げることにつながる。
- 職業学科は後継者育成の観点から無くしてはならず、入学者数を確保する施策が必要である。
- 農業や水産業、商工業に関する学びは、担い手育成の観点から必要である。
- 新普通科については卒業後の進路について検討する必要がある、地元就職につながるような社会との接点づくりを行うことが考えられる。

<その他>

- 高校の立地は中学生が進路を考える上で重要な要素だが、学びたい高校に進学できることが真に重要である。

4 定時制課程及び通信制課程に関する意見

- 生徒の学習機会の確保に向けて、定時制課程・通信制課程を拡充することも考えられる。
- 多様な生徒に対応するため、現状どおりの配置が良い。
- 通信制課程は進路の多様化に伴いニーズの増加が予想されるが、私立の通信制課程の高校等が増えているため、公立高校として新たに設置しなくても良い。
- 各地区に通信制課程の高校を設置するのが良い。

5 その他

- コミュニティ・スクールの仕組みを活用して地域と連携していくことが必要である。
- 小中学校や幼保、大学と連携しながら、地域の魅力を発信するなどの仕組みづくりが必要である。
- 遠方の高校の授業をオンラインで受講し、在籍校の単位に互換させることも考えられる。
- 学校配置については、通学支援とセットで考える必要がある。
- 私立高校と比較しながら県立高校の優位性を考える必要がある。
- 八戸西高校は田子町内の生徒の進学先の一つだが、部活動等の時間を確保するためには下宿等の対応が必要となるため、保護者の負担軽減について考慮する必要がある。
- 名久井農業高校の全国募集は今後も継続してもらいたい。
- 国が策定した高校教育改革に関する基本方針の視点はいずれも社会で必要とされる力だが、それについてどのような教育活動が求められているのか、研修等を通して高校に浸透させる必要がある。
- 多様な学びを提供するためには、教員確保は非常に重要である。
- 県においても生徒の通学環境の整備のために、各校までのバスの運行等について考えることが必要である。
- 令和10年度以降に高校生となる児童生徒やその保護者に対し、学級減等に関する情報を早めに周知するべき。

【参考1】委員名簿（三八地区）

| 区 分 | 職 名 等 | 氏 名 | 備 考 |
|------------------|-----------------|---------|----------------------|
| 市 町 村 長 | 八戸市長 | 熊 谷 雄 一 | |
| | 三戸町長 | 沼 澤 修 二 | |
| | 五戸町長 | 若 宮 佳 一 | |
| | 田子町長 | 山 本 晴 美 | |
| | 南部町長 | 工 藤 祐 直 | |
| | 階上町長 | 荒 谷 憲 輝 | |
| | 新郷村長 | 佐 藤 和 友 | |
| 学 校 教 育 | 八戸市教育委員会 教育長 | 齋 藤 信 哉 | |
| | 三戸町教育委員会 教育長 | 原 寿 | |
| | 五戸町教育委員会 教育長 | 澤 田 尚 | |
| | 田子町教育委員会 教育長 | 尾 形 真一朗 | |
| | 南部町教育委員会 教育長 | 高 橋 力 也 | |
| | 階上町教育委員会 教育長 | 濱 浦 幸 夫 | |
| | 新郷村教育委員会 教育長 | 今 井 裕 一 | |
| | 八戸市立是川中学校長 | 三 橋 央 尚 | |
| | 五戸町立五戸中学校 | 佐々木原 淳 | |
| | 元県立八戸西高等学校 校長 | 米内山 裕 | 進行役 |
| | 元県立八戸高等学校 校長 | 一 戸 利 則 | |
| P T A | 八戸市立新井田小学校PTA会長 | 田 畑 芳 幸 | |
| | 田子町立田子小学校PTA会長 | 内 沢 朝 美 | R7. 11. 14~R8. 5. 10 |
| | 南部町立南部小学校PTA会長 | 布 施 和 洋 | R8. 5. 15~ |
| 産 業 界 | 八戸商工会議所青年部 会長 | 岡 本 信 也 | |
| | 南部町商工会青年部 常任委員 | 後 藤 欣 司 | |

【参考2】オブザーバー名簿（三八地区）

■ 令和7年度

| 職名 | 氏名 | 備考 |
|----------------|--------|----|
| 県立八戸高等学校 校長 | 嵯峨 弘章 | |
| 県立八戸東高等学校 校長 | 矢部 広明 | |
| 県立八戸北高等学校 校長 | 田島 博文 | |
| 県立八戸西高等学校 校長 | 坪 宏至 | |
| 県立三戸高等学校 校長 | 直町 年行 | |
| 県立名久井農業高等学校 校長 | 小笠原 理高 | |
| 県立八戸水産高等学校 校長 | 畑井 和人 | |
| 県立八戸工業高等学校 校長 | 佐藤 努 | |
| 県立八戸商業高等学校 校長 | 田村 滝子 | |
| 県立八戸中央高等学校 校長 | 濱端 美奈子 | |

■ 令和8年度

| 職名 | 氏名 | 備考 |
|----------------|--------|----|
| 県立八戸高等学校 校長 | 嵯峨 弘章 | |
| 県立八戸東高等学校 校長 | 矢部 広明 | |
| 県立八戸北高等学校 校長 | 田島 博文 | |
| 県立八戸西高等学校 校長 | 畑井 和人 | |
| 県立三戸高等学校 校長 | 直町 年行 | |
| 県立名久井農業高等学校 校長 | 山崎 邦彦 | |
| 県立八戸水産高等学校 校長 | 後村 敏明 | |
| 県立八戸工業高等学校 校長 | 野呂 政幸 | |
| 県立八戸商業高等学校 校長 | 田村 滝子 | |
| 県立八戸中央高等学校 校長 | 濱端 美奈子 | |

【参考3】学校の在り方地区検討委員会の開催状況（三八地区）

| | 年月日 | 内 容 |
|---|------------|----------------------------|
| 1 | 令和7年11月25日 | ○ 学校の在り方について ○ 学校配置について |
| 2 | 令和8年 1月29日 | ○ 学校配置について |
| 3 | 令和8年 4月24日 | ○ 学校配置について |
| 4 | 令和8年 5月15日 | ○ 検討結果報告書（案）について |

【参考4】地区懇談会（令和7年10月実施）等の主な意見

<学校の在り方>

- 高校はある程度の学校規模が必要である。地域によっては高校を残す必要もあると思うが、部活動等の教育活動を含む高校生活の中で、多様な他者と関わりながら成長していくものとする。
- 一定規模の高校がいくつもある状態が理想的であるが、個別最適な学びの観点から、小規模校であっても地域との関わりが深い高校は郡部に必要である。
- 多様な生徒への対応として、中学校になじめなかった生徒がリスタートできる高校が必要である。
- こどもたちを競争させるのではなく、一人一人を大事にする高校が必要である。

<学校配置>

- 郡部の高校は存続させてほしい。
- 商業高校、水産高校、農業高校については定員割れが顕著であり、これらの高校が単独校として存続するイメージがつかない。小規模校として残すことを考えるよりも、統合しキャンパス制とするほうがよいのではないか。
- こどもがいる地域は、高校を存続させるべき。
- 一律に学級減で対応するのではなく、市部の高校は統合して教育の質を確保することが必要である。
- こどもが減っているため統廃合は仕方ないが、一極集中しすぎている。せめて小規模の進学校を県内に満遍なく設置することはできないか。

<その他>

- 10年間での削減学級数が11学級とのことだが、この分の学級数削減が本当に必要なのか。少人数学級編制を実施し、削減学級数を減らすこともできるのではないか。
- 高校生の体や机の規格が大きくなり、荷物も多くなっている状態で、40人学級編制だと教室が窮屈である。工業科等の職業学科では35人学級編制を実施し、充実した教育の提供や多様なこどもたちへの対応ができています。全県的に35人学級編制としても良いのではないか。
- 多様な生徒が増えている中、教員の負担を考えると、40人学級編制ではなく35人や30人の学級編制としてもよいのではないか。また、全校一律で35人学級編制とするのではなく、各校の実情に応じて20人や40人の学級編制とすることで、生徒の選択肢が広がるのではないか。

- 郡部は中学生が少ないため、25人の学級編制とするなど、少人数学級編制を実施した方が良い。なお、市部でも少人数学級編制の高校があっても良い。
- 教職員がきちんと配置されれば、高校教育の質を確保できる。
- 公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律に基づく教職員数では、授業をはじめ、学校運営や分掌等が回らない状況となっている高校もある。特に小規模校の場合は、学校運営に支障をきたすおそれがあるため、カリキュラムや学校の分掌などを考慮して教員配置をしてほしい。
- 水産高校や農業高校に全国募集を導入し、全国から生徒を集めるべきである。
- 統合等により高校がなくなるのであれば、通学支援等を県が実施する必要がある。
- 現在の6地区割りについて、3地区や4地区などに見直す必要がある。